

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教 会 報

193 号 2019 年 5 月 26 日

〒152-0022
東京都目黒区柿の木坂
1-31-19
電話：03-3717-3870
Fax：03-3717-3916

巻頭言

「復活されたキリストがわたしたちと共に」

——ルカによる福音書第24章31～32節——

牧師 渡邊 義彦



すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」で語り合った。（新共同訳聖書）

エマオへと向かう二人の弟子たちの旅の目的ははっきりとしません。金曜日の衝撃的な先生の最後にショックを受けて失望して、失意のうちにエマオへと向かったのか、自分たちも殺されることを恐れての逃亡の旅か、神の国の実現、ユダヤ、イスラエルの政治的地位回復の希望もあの方の死によって既に潰えてしまい、新たな希望を求めて早々にエルサレムを去ったのか。エマオはエルサレムから 60 スタディオンほどところと言われてありますから、10 キロほどの距離でしかありません。それほどの大げさな理由を伴った旅ではなかったかもしれません。わかりません。

この弟子たちの旅路によみがえられたキリストが伴われます。弟子たちにはまだこの道の途上においては、同行しているこの旅人がよみがえられたキリストであることは分かっていません。自分たちに同行してくれた旅人がキリストであられたことに彼らが気付くのは、主と食卓を共にしたときでした。キリストが裂いてくださったパンを食べ、道々旅を共にしてくれて、聖書から説き起こしてメシアの苦難と栄光を語ってくれた、そして、この食卓の主人でいてくださる方が、よみがえられたキリストであると分かったのです。

彼らは、キリストが旅に伴ってくださっていたことに気付かされ、旅の途上で、主が語ってくださったことを思い起こしました。主が聖書について語ってくださったとき、彼ら内に生き生きとした希望が、力が湧き上がって心が燃えたことを思い起こしたのです。キリストは弟子たちと共に道を歩まれ、聖書全体から御自身のこと、メシアがなさる救い、メシアが受けられる苦難と栄光とを、弟子たちにもう一度語られました。

メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。

苦しみと栄光、受難週終わりに至り深まる闇と最初の主の日の明けゆく明るさの中で、メシアの苦難と栄光が分かちがたく結びあっていることを聖書全体からキリストはお語りくださったのです。主イエスの十字架とキリストの復活、まことの人、まことの神であるお方が果たしてくださった、人としてわたしたちの苦しみと一体となられて、わたしたち人間には決して負うことのできない苦難を一人負われ、神として父の栄光と一体となられ、ただ一つの栄光を受けられた。苦難と栄光は、メシアであるキリストの、一つの、一体の救いの御業で分けることはできない。

主の十字架、復活を経験したマリアたちの思い、弟子の筆頭ペトロの思い、弟子のトマスの思い、弟子たちには一様でない思いが、金曜日の十字架と日曜日の復活の間、この3日間にあったのであろうと思います。けれども、暗さが増してゆく受難週、そして聖金曜日にはその闇

は最も濃くなり、すべてが静まっている土曜日をはさみ、復活日、主の日の明るさに至る三日は、闇の中で、弟子たちが絶望し、また、明るさの中で、再び、弟子たちが立ち上がられ、そして新たに、キリストのものとして生きはじめに必要十分なときであったのでしょう。

十字架のもとにおいても、空の墓を前にしても、よみがえられたキリストが旅路に共にあってくださっても、確かにまだ、この最初のイースターの日に、人々の間に真実な礼拝は起こっていません。今まさに生み出されようとしている教会に、真実な、何によっても取り去られることのない大きな喜びをもって、神の栄光を讃える賛美が、礼拝が起こるには、なお50日を経なくてはなりません。まだ、弟子たちには、キリストの御苦しみゆえの悲惨だけが、彼ら、彼女らの心を占領してしまっているかのようです。既に夜は明けているのに、闇の中に残り残されてしまっているかのようです。

けれども、弟子たちは気付かされてゆきます。メシアが苦しみを受けられて栄光に入られたことに彼らは気付いてゆくのです。苦しみなしの栄光はないし、栄光に至らない苦しみは決してないことに気付いてゆくのです。十字架においてこそ救いは成ったことに弟子たちは気付かされるのです。復活という事実から遡って十字架の救いの出来事に気づかされてゆくのです。

主イエスは、ガリラヤを発ってエルサレムへと向かわれ十字架へと至る道を歩みはじめられるときに、弟子たちにあらかじめ語っておかれました。御自身が人々からは排斥され、殺されることを語っておかれました。そして、三日の後には復活なさることを語っておかれました。主がこのことをエルサレムへの旅の間、繰り返し弟子たちに語ってこられたときには、主が語られることを彼らは受け入れることができませんでした。弟子たちが聞き取ることができたのは、主が殺されることを恐れることに留まっていた。弟子たちにとって主が語られることは救いの言葉にはなりません。

しかし、主の言葉が真実であったこと、救い

の言葉であったことを、弟子たちはこの日曜日に知り受け入れました。

人々の間で、最も闇が濃くなるそのところで、神が為さる救いがはっきりとします。十字架は、復活の朝となり夜が明ければクリスマスツリーのように片づけられてよいのではなく、ますますよいよ、主が復活された喜びの中で、明るさの中で、血塗られた忌まわしい残酷な死刑の道具であり、死の象徴であった十字架は輝きを増し、わたしたちに救いを告げます。命を告げます。主は、十字架の苦しみを語られ、復活の栄光を弟子たちに語られました。主イエス・キリストは、十字架の苦しみを経て栄光の復活に至られました。

わたしたちの日常は、確かに、現代に到ってもまだ、この復活の栄光に照らされた輝かしさを持っていません。死も、涙も、苦しみも、悲しみも、いまだ拭われていない日々にあります。けれども、罪赦された喜びと感謝を、罪赦されたゆえに授けられる永遠の命の約束を、死を越えても取り去られることない希望を、信仰において、わたしたちは知らされています。

主イエス・キリストは、死をもって死を滅ぼされ、復活なさいました。

ゆえに、主イエス・キリストが永遠の命を勝ち取ってくださったことへの希望も、主イエス・キリストがわたしたちの救い主でいてくださることを信ずる信仰も、決して過ぎ去ることはありません。

よみがえられたキリストは、生きておられます。復活の主が、わたしたちと共に、あなたと共におられます。

集会出席統計(月平均人数)

	2019年	
	3月	4月
主日礼拝	81.2	99.0
聖書と祈り会	16.3	12.3
教会学校*	92.0	132.0
*保護者、教師を含む		
(第1主日開催)	3月3日	4月7日
聖餐夕礼拝	13	7

☆☆☆ 教会の行事 ☆☆☆

◇今まであったこと

4月14日 棕櫚の主日、礼拝後、2019年定期教会総会が開催されました。

はじめて選ばれた二人の長老が誕生しました。

4月21日 復活祭礼拝。聖歌隊の奉唱と、ハンドベルクワイアの奉仕がありました。

午後、愛餐会が開かれました。



今年も名司会者コンビの登場で、楽しい愛餐会になりました。それぞれのテーブルから、今年一番の出来事についての発表がありました。珍しいベルツリーの解説と、その演奏もありました。

◇これからの予定

6月9日 聖霊降臨日（ペンテコステ）礼拝

同日午後3時から明治学院礼拝堂で、南支区・明治学院共催の「ペンテコステの集い」。例年通り、南支区合同聖歌隊（指揮：梶田恒長老）が奉仕します。

6月は伝道月間です。

6月 2日（日）10時30分から

説教「必要なことはただ一つ」

柿ノ木坂教会牧師 渡邊 義彦 牧師

6月 9日（日）10時30分から

説教「時のしるしを見分ける」

柿ノ木坂教会協力牧師 松下 恭規 牧師

6月16日（日）10時30分から

説教「後悔と悔い改め」

洗足教会牧師 洪 徳憲 牧師

6月23日（日）10時30分から

説教「愛の大きさ」

東京神学大学教授 芳賀 力 牧師

6月30日（日）10時30分から

説教「恵みの約束、平和の計画」

明治学院 学院牧師 北川 善也 牧師

2019年6月 柿ノ木坂教会 伝道月間

わたしたちの教会では6月伝道月間に、毎日曜日、特別伝道礼拝を創ります。日曜ごと、礼拝のため立てられる説教者たちが、祈りをもって聖書の御言葉を語りあえます。キリスト教、教会に関心のある方、はじめてでありましてもご出席ください、ぜひ礼拝会へ一緒に参りましょう。

6/2 (日)	AM 10:30~	説教「必要なことはただ一つ」	日本基督教団 柿ノ木坂教会牧師 渡邊 義彦 牧師
6/9 (日)	AM 10:30~	説教「時のしるしを見分ける」	日本基督教団 柿ノ木坂教会協力牧師 松下 恭規 牧師
6/16 (日)	AM 10:30~	説教「後悔と悔い改め」	日本基督教団 洗足教会牧師 洪 徳憲 牧師
6/23 (日)	AM 10:30~	説教「愛の大きさ」	東京神学大学教授 芳賀 力 牧師
6/30 (日)	AM 10:30~	説教「恵みの約束、平和の計画」	明治学院学院牧師 北川 善也 牧師

日本基督教団 柿ノ木坂教会

「癒しとなり、力となった聖書・讃美歌」

豊田 滋美

4～5歳の頃、近所に教会はありませんでしたが、ある信者の方が自宅を開放して、子供たちに紙芝居を見せていました。日曜日になるとその方はメガホンを通して、「刈り入れる日は近し」と讃美歌を歌いながら歩いていました。

母の勧めで姉と一緒に通い始めました。母はクリスチャンではありませんでしたが、以前信者の方の家に行ったことがあったそうで、教会に行っていれば間違いはないからとよく言っており、送り出してくれたのです。

母がいつも讃美歌 466 番（編集者注：当時は昭和 6 年版讃美歌 444 番）「山路越えて」を間延びした調子で歌っていたのを今でも思い出します。小学校の頃には教会も出来、カードを集めたり、クリスマス劇などに参加して楽しく通っていました。牧師は白川先生で、以前柿ノ木坂教会で伝道師をしておられた木下先生のお父様のお知り合いと後日お聞きしました。とてもきびしいお説教をする方でした。

教会ができて数年後、いよいよ戦争が激しくなり、牧師の仕事は大変きびしく、いつも畑仕事をしておられる様子でした。戦後は若い人が教会に来るようになり、伝道集会では賀川豊彦先生の講演を聞くチャンスもいただきました。

中学生の頃は修養会に参加し、海に見えるヒュッテに泊まり朝日が昇るのを見ながらの早天祈祷会は大変印象的でした。屋内が長い板張りでしたので、元気のよい男子は衣服のままでの「水泳大会」で、大騒ぎでした。

中三の時、親友と受洗することを決め、牧師の勧めで姉を誘い、三人で受洗しました。

その友人はつい先ごろまで教会学校の校長先生でしたし、姉も 5 年前に亡くなるまで長老でした。

高校の頃は教会学校のお手伝いなどもしましたが、まだ責任感などはなく、勉強不足の時には、子供たちが騒ぎ出し、困ったこともありました。そんな私ですから、今、柿ノ木坂教会の教会学校の先生方には本当に感謝するばかりです。

若いころはなかなか教会に行けず、大森めぐみ教会に時々通い数年を過ごしてしまいました。

結婚後は、カトリック信者の義母と義姉の留守番役で、たまにカトリックの教会に出席するくらいでしたが、その頃のミサでは日本語の説教がなく、物足りなく感じていました。

九品仏に住んだ頃、奥沢教会にも出席し、昭和 45 年ごろから柿ノ木坂教会に通い始めたのです。長男が生まれた直後、1 か月ほど入院したことで、教会に行く願いを強めていたのです。生まれたときの子供のいとおしさを思うにつけ、ヨハネによる福音 3 章 16 節、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」を思い起こし、我が子を給うとはどれほどのことかと、神の愛の深さを改めて知ることになったのです。この言葉は私の大好きな個所です。

柿ノ木坂教会に転会したころの婦人会は、バザーの初期で、文先生（小川牧師夫人で幼稚園の先生、下左の写真の右側）、土師姉（同左側）、戸井姉（写真中）、長尾姉（写真右）など婦人会のレジェンドのような方々がおり、



（撮影時期：左から 1959 年、1967 年、1986 年）

バザーの前日など夜の12時頃にトイレの掃除をしたなどの話をされていました。

お寿司をたくさん用意し、バザーは婦人会だけで開催されていたと思います。

他に、野外礼拝や講演会なども次に続くメンバーで積極的に行うようになってきました。その頃から、私も小川牧師の聖書研究に十数年通い、改めて十字架について学んだのでした。



現在の地に引っ越した拙宅で(撮影は1981年)
左から小川文先生、松田町子姉、井澤須美子姉、筆者

その後の委員会活動は長く、勝田牧師の時、渡邊牧師が南部坂教会に牧師として赴任され、その後、柿ノ木坂教会に戻られたときまで、活動できたことは、なぜか嬉しいことでした。

婦人会の交わりの中で学んだ聖書で、コリントの信徒への手紙一13章2～4節「・・・山を移すほどの強い信仰を持っていようと、愛がなければ、無に等しい。」は、心に強く残っており、お互いの長所を見て交わることを学んだように思います。

先頃いずみ会の読書会で、カルヴァンを学びたいと渡邊先生に選んでいただきました。ドナルド・K・マッキム著、出村彰訳「魂の養いと思案のために」ーキリスト教綱要を読むーで、初め周りからも難しそう、と言われて心配しましたが、読んでみますと意外と読みやすく思えたのでした。(キリスト教要綱は大変難しいとのことですが) 著者、訳者のすばらしさもあったのですが、考えてみますと、私達は毎週のお説教でルターやカルヴァンを学んでいるのだと思いました。渡邊先生のご助言をいただき、とてもよい会になり、礼拝説教を聴く幸せを改めて感じました。

32年ほど前、主人が心筋梗塞で入院し、2～3年教会生活もままならず、その後、南支区の委員を引き受けました。2年目でしたか、館山の「にじの家」を訪問する電車の中で、朝地震があったことを話し合っ、夕方家に着き、初めて阪神淡路の大震災を知り、びっくりしたことは忘れられないことです。

8年前に、主人がまた心臓を悪くし、バイパス手術を受け、8時間以上かかりました。

その年はペースメーカーの手術や検査で5回も入院し、ただ祈るばかりでした。しかしその後、主人は割合元気ですし、私自身、試練の中でも、趣味の油絵をずっと世話役をしながら今年で30年目。ただ感謝あるのみです。

年と共に讃美歌もやさしいものから、力強いものがよくなり、456番「我が魂を愛するイエスよ」や、458番「信仰こそ旅路を導く杖」など、良く歌っています。

13年前孫が生まれた時、その喜びを伝えたく思い、自作の絵本を贈りました。「神様から



のプレゼント」という題で、生まれた時から幼稚園までの簡単な絵本です。聖句は彼が大きくなった時、読んではしいと「イザヤ書43章1～4節を選びました。4節「わたしの目にあなたは価高く（あたいたか



く)、貴く、わたしはあなたを愛している」を選びました。

今一番好きな聖句は詩編121編です。

「昼は太陽があなたを撃つことなく、夜は月があなたを撃つことはない。とこしえに至るまで守られる」。

力強いみ言葉です。

<*写真は井澤>

「会堂当番の仕事」

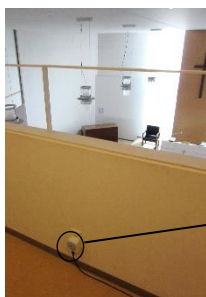
山田みち子

毎週日曜日の礼拝。皆さま教会玄関の扉を
入り、出席のチェックをし、階段を上り週報
ケースからいろいろな通知、週報を受けとり
席に着かれます。

早くいらっしゃる方、ギリギリにいらっし
やる方、いろいろですが、礼拝に出席できる
幸いをかみしめていらっしゃることと思い
ます。

私たちは、気持ちよく正しい礼拝を守る
ようにさまざまな作業をします。

光になり講壇に立
つ人の顔が見えに
くいからです。→



礼拝前

＊聖餐桌に掛布を掛ける。

〔第1主日・復活日・聖霊
降臨日・高齢の方に配慮
した礼拝の日・降誕祭の
主日礼拝は、聖餐式が
あるので、講壇と聖餐桌
との間に牧師が立たれる
スペースを空けて聖餐
卓を並べます〕

＊講壇の掛布の色を確認。
礼拝準備室に示してあ
る典礼色カレンダー
を参照する。→



＊讃美歌ボードに讃美歌の番号、交読文の番
号を掲示します。〔一番上は、私はどうし
てもとどかないのです。いつもいつも近く
に私より背の高い人…どなたでも大丈夫…
にお願いして番号札を入れていただいたり、
はずしていただいております〕

＊献金袋6袋を司式者席の脇卓に乗せる。

＊スタンドマイクを会堂左側に置く。

＊3階ギャラリーの天井灯を点灯し、スポット
ライトのタイマーを2時間にセットする。
理由は、講壇の後ろの窓から光が入り、逆

↑バルコニーにセットしてあるタイマーと、スポットライト

＊補聴器を用意している旨の案内札を、会堂
入口付近のテーブルに立てる。

（編集者注：礼拝堂床には「磁気ループアンテナ」が埋めてあり、
周りの雑音を拾わずに説教などを聴けるような補聴器です。）

＊献金当番の座席カード6枚を第3列、第4
列の最前部に置く。

＊会堂のエアコンの調整を
する。

礼拝準備室の中にあるエア
コンの調整器は、礼拝堂東側と
西側用の二つがあります。→



＊準備が整ったら、会堂入口に立ち、来会者
を迎える。

＊初めて来られた方を受付当番の方から引
き継いで、座席に案内し、隣席の教会員に
礼拝式要領の案内をお願いする。

〔皆さま快く引き受けてくださいますよ。〕

＊10時30分：前奏が始まると同時に会堂入
口左右の扉を閉める。以降は集会室側から。

礼拝中

＊献金の時、受付当番から預かった献金箱を
献金卓に運び、献金として捧げる。

＊出席者を数える。〔かわいいお子様も男女別に数えます。時には、えっ男の子？女の子？と思うことも…、遅くいらした方、早く帰られる方のチェックも大切です。〕

〔私の一番好きな場面は、礼拝の最後、祝福の際司式者に『小さいお子様は前に来て、牧師先生の祝福を受けてください』と言われ、子どもたちが最前列に横一列に並ぶ時です。「静かに！」「シーッ、」と言われていた子どもたちもほころしげに、うれしそうにして祝福を受けている時です。大人の礼拝の内容などほとんど分からない、活発に遊びたいさかりだと思います。[でも、小さいお子様を大切にすること。一人ひとりの子どもたちの心の中に種をまいていращやる神さまに感謝します。]

＊司式者が礼拝終了の合図をし、退堂の奏楽が始まったら、会堂入口左右の扉を開ける。

礼拝後

＊礼拝日誌に、説教者、説教題、聖書朗読箇所、司式者、奏楽者、出席者数を記入する。

＊聖餐桌の掛布を仕舞う。

＊讃美歌ボードの番号札を仕舞う。

＊スタンドマイクを仕舞う。

＊3階ギャラリーの天井灯を消す。

＊補聴器案内札を仕舞う。

＊献金当番の当番札と座席カード各6枚を回収する。

＊事務ボードの礼拝当番表を見て、次週の献金当番者の当番札を作成する。次週礼拝に聖餐がある場合は、配餐当番札も作成する。当番札はまとめて玄関受付カウンターの受付当番用箱に入れる。

以上が会堂当番の仕事のあらましですが、気持ちよく正しい礼拝を守れるように会堂当番と同じ様な仕事を担当されている方々がいらっしゃいます。

＊講壇の右にかざってあるお花は、毎週とても美しいです。礼拝の前日にお花を持っていらして活かしています。どなたが活けたの

かは分からない事が多いのですが、花が好きな私は携帯で写して保存しています。

＊礼拝のマイク調整や録音も礼拝委員の何人かで受け持って操作しています。

もう1回礼拝の内容を聞きたい方、礼拝を欠席したので後で聞きたい方、教会に来ることが困難な方のために、録音テープの貸し出しを行っています。どなたでも貸出しノートに記入してお持ち帰りいただけます。

＊聖餐の準備をする仕事も何人か決まった方が担当されています。

パンを切り、ぶどうジュースを杯に入れる作業、終わった後にきれいに洗う作業を丁寧になさっています。

神さまの御言葉を皆さまが気持ちよく正しく受け止めることができるよう、準備することが私たちの仕事だと思っています。お気づきのことはいつでも教えてください。

礼拝の最後に、会堂に後奏がひびき、退堂される牧師先生を会堂出口扉を開けてお待ちする時、感謝をもって「良い礼拝でした」と思える幸せ！ 良い仕事をさせていただいています。



↑ 礼拝堂の後ろにある機器



↑ 礼拝を録音した貸出用テープ

今月のメッセージ

——ホームページページ巻頭言——

ホームページには多くの情報が掲載されています。

ぜひご覧ください

<http://kakinokizaka-church.com>

兄弟たち、わたし自身は既に捕らえたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後のものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

(新共同訳聖書・

フィリピの信徒への手紙第3章13、14節)

コラムとしては、少し時間が経って新鮮さが無くなった話題ですが、新年初めの駅伝を観ながら考えたことです。繰り上げスタートというルールについてです。襷(たすき)が往路、復路とつなげられてきて、しかし、いくつかのチームは、制限時間内に次の中継所まで襷が運べず、時間が来ると次の走者は襷が届かないけれども、その中継所からスタートしなくてはならないのです。アナウンサーは、汗の滲んだ襷はつながりませんでした、と感動的にその場面を描写します。競技時間の短縮、交通規制の早期解除など制約があることはわかりますが、切ない場面です。

この襷が物理的につながらないということを考えました。わたしたちは、たくさんの人たちに福音を伝え、信仰を受け継いでもらいたいと願い、祈り続けています。しかし、宣べ伝える福音がすべての人に受け入れられるのでもなく、信仰が受け継がれるのでもありません。特に、愛する家族が、自分の最も大切にしていることを理解してくれないことほどつらいことはありません。信仰の襷がつかない、ここまで懸

念に走ってきたのに、という思いになることがあります。

また、せっかく引き受けてくれた信仰の襷を、彼が、彼女が人生の途上で手放してしまったのか、と思えるようなことに出会うこともあります。ほんとうに、がっかりと、寂しくなることです。

しかし、先の駅伝のことをもう一度思い起こしてみると、たとえ繰り上げスタートをしたとしても、それは競技時間の都合によるのであって、競技としては成立していて合計の走行時間が算出されて、失格、途中棄権となるわけではないのです。襷が物理的につながらなかったとしても競技は続いているのであり、それでもなお走者は少しでも前へと襷を携えて走っているのです。自分が手渡すべき次の走者が既に出発してしまった中継所を目指し走っている走者も、後から来る襷を受取れずに出発した走者も。みんな懸命に、前に前に走っているのです。冒頭に引いた聖書の言葉を記した使徒パウロも、そんな競技者たちの姿に自分たちに信仰のありようを重ねたのでしょう。

この五月には、子供たち、大人たち、この柿ノ木坂教会の礼拝に集う者たち皆が一時、一所に集まったの合同礼拝をささげました。わたしたちの信仰を受け継いでくれる、後ろから走ってきている者たちがいます。わたしたちの前を懸命に信仰の馳せ場を前へ前へと開拓してくれている人たちがいます。信仰の襷はなお途切れしていない、そう信じるのです。

(牧師 渡邊 義彦)

——編集後記——

- ・「会堂当番」の仕事について書いていただきました。本当にやらなければならないことが沢山ありますね。教会はこのような様々な委員会メンバーのお働きにより、礼拝がスムーズに進み、神様のみ言葉を聴く場が整えられていることに、心から感謝いたします。
- ・来月は「伝道月間」です。駅貼りのポスターを見ておいでになる方も多いのですが、伝道は、一人一人の業が大切です。特にこの期間、多くの方々にお声掛けをいたしましょう。
- ・教会報へのご意見、ご感想をお寄せください。
(編集委員長 井澤浩一)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分

日本基督教団 柿ノ木坂教会
〒152-0022 東京都目黒区柿ノ木坂 1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規